

第 420 回 難 研 セ ミ ナ ー

下記により難研セミナーを開催しますので、多数御来聴下さい。

記

日 時： 2009 年 4 月 28 日（火） 19:00～20:00

場 所： 医歯学総合研究棟（I 期棟） 2F 講義室 1

演 者： 川島 武士 先生

（沖縄科学技術研究基盤整備機構（OIST） 研究員）

演 題： 比較ゲノム学が明らかにする動物の発生進化

要 旨：

1998 年に最初の動物ゲノムとして、センチュウ（*C. elegans*）のゲノムが解読されてから 10 年以上が経過した。以来、ゲノム DNA 解読手技術の著しい向上を伴い、すでに 40 種以上の動物のドラフト・ゲノムが解読され、発表されている。

ドラフト・ゲノム解読の技術が動物科学にもたらした大きな貢献の一つは、これまで分子生物学的手法の適用が困難であった野生の動物でも、解読可能にしたことである。その動物の個体、もしくは精子など、DNA を十分量採取することさえできれば、直接その配列を解読することができる。これによって、多様な動物種のゲノムのデータを偏りなく集めることができるようになり、動物の比較解析学に多くの新知見がもたらされるようになっている。

講演者は、これまでとくに海産無脊椎動物のゲノム解読とその比較解析に興味をもってとりこんできた。米国カリフォルニア州にある共同ゲノム研究所（Joint Genome Institute）との共同でおこなわれた、ホヤ、ナメクジウオのゲノムプロジェクトでの経験や、沖縄科学技術研究基盤整備機構（OIST）において解読をすすめている、サンゴとギボシムシのゲノム解読の現状を中心に、過去 10 年の動物比較ゲノムがもたらした知見について、とくに進化学的な視点から考察したい。

連絡先：生命情報学分野 田中 博（内線 5839）

エピジェネティクス分野との共催となります。